

「何を着ようかな」「その服いいね♡」で 世界が広がる。フアッションのカー!

年を重ねると、体形が変わったり体が思うように動かなかったりして、服を着ることが大変になる。選べる服も限られてきて、おしゃれを楽しむ気力も失せがちだ。

でも「フアッションは人を前向きにする力がある」と語るのは、愛知県から、高齢者が脱ぎ着しやすくおしゃれな服を提供する「キアレッタ」主宰の前野いずみさん。

衰えて、いろいろなことを諦めかけた高齢者を服で元気にしているという。

前野さんの服作りのアイデアや高齢女性をも勇気づけるフアッションの魅力を聞いた。

自分で好きな服を着られることが生活意欲に影響大

「最近、小さいボタンがうまくはめられなくて……」「嫁がくれたスカーフ、こんなピンク色のは恥ずかしいわ」

前野さんが身近な高齢の友人たちとこんな話を交わす中で、ごく自然に「このおばあちゃんたちが楽に着られて、かわいくなる服を作りたい」と、クリエイター魂に火がついたのが、ブランドを立ち上げるきっかけだった。

「実はさらにその前に、私の母が五十肩で、うまくジャケットやシャツが着られず悲鳴を上げていたのを見ていて、こういう不便は服のデザインで解決できるはず」という思いがずっとあったのです。

いわゆる介護用ではなく、高齢者向けの服でもない。年を取っているいろいろな変化があっても、今まで通りフアッションを楽しめるように、デザインを工夫したのが『キアレッタ』の特長です」

ターゲットである高齢者をじっくり観察すると、年を重ねるごとに肩が前に出たり、背中が丸くなったりする人が多いことがわかったという。

「体形が変わると、若いころから着ていた服の着心地が悪くなる。サイズは変わらなくても体にフィットしなくなるのです。するとつい、ワンピース大きめや、体のラインが

目立たない地味なデザインのものやタラリと着てしまう。実際に一般的な高齢者向けの既製服は、総じて万人向けの黒やグレー系、無難なデザインのものが多いのです。でもやはり自分の体に合った服はすっきりきれいに、きちんとして見えます。服は社会との接点ですから、高齢者にとっては特に、きちんと、大切なことです」

そして体に不自由が出てくると、着脱も難しくなる。「たとえば老親が服のボタン



猫背でも肩周りの動きスムーズ



背幅線（肩甲骨周辺）にたっぷりゆとり。後ろは4cm長く取っているの、背中が丸くなっていてもすっきりスタイル。リボンブラウス 1万4580円

手の力が弱くてもスムーズ!



ボタンは大きめ、ボタンホールは斜めに配置。オリジナルファスナーで楽々開閉。

認知症の人を助ける ユニニクも

『キアレッタ』の服に活かされている工夫の数々を紹介

「たいていお気に入りの服を自力で着れば嬉しくて、散歩にも出かけたい。それがフアッションの力です」

を留めるのに手間取るようになると、家族は待ちきれず、もつてきなくなったりと、すぐ手を貸してしまいがち。でも手に力が入りにくくボタンがつかめない、目がかすんでボタンホールが探せないだけでもありません。

自分で服を着るといっても、重要なフライドなのです。人にやってもらえば一気に受け身になってしまふ。

体に合ったお気に入りの服を自力で着れば嬉しくて、散歩にも出かけたい。それがフアッションの力です」

「白内障や認知症などでは色の区別がつきにくくなるので、生地とボタン、ボタンホールの刺しゅう糸の色を変え、コントラストをしっかりと出す工夫をしています」

小さくてツルツルしたボタンをボタンホールにくぐらせるのが難しくなるので、ボタンを大きめにし、凸凹のある素材やデザインのものを使います。ボタンホールを斜めに開けることで、さらにスムーズに留められます。

「まず多くの高齢者が、手先の力が弱くなります。小さくてツルツルしたボタンをボタンホールにくぐらせるのが難しくなるので、ボタンを大きめにし、凸凹のある素材やデザインのものを使います。ボタンホールを斜めに開けることで、さらにスムーズに留められます。」

●教えてくれた人 名実アパレル「キアレッタ」 クリエイティブ・ディレクター

前野いずみさん

高齢者向けのユニバーサルフアッション・ブランド「キアレッタ」を主宰。HPで服やフアッション雑貨の販売、カウンセリングのほか、シニアフアッションのデザイン、企画、コンサルティングなどを行う。



認知症でも気にせずお食事 外出が楽しくなるチュニック



チュニックは前後どちらに着てもOK。共布のエプロンは肩のホックで留め、食事が終わったらさっと外せば気づかれない！認知症患者の機能低下をカバーするチュニック ●万●●●円

部分にギャザーやタックを使ってゆったりさせ、後身頃がすり上がって短くならないよう、初めから長めにデザインされている。
また腕を上げたり回したりするのが難しくなり、かぶって着るのがつらくなるという。



車いすでも 座ったまま履ける

マジックテープとファスナーで両脇が全開に。あらかじめ椅子に敷いておけば、座ったまま両脇を閉じられる。外脇全開パンツ 1万6200円

そのため、トップスの多くはオリジナルファスナーを使わず、前開きの全開。外から見えないフロント比翼仕立てで、閉めるとフルオーダーのように見えるのもおしやれだ。「パンツにもファスナーを使

高年齢者ファッション積極的に楽しんで

どんなに年を取っても、普段、服に関心がなさそうにしている人も、新しい服を手にするとき、心置きなく楽しめませう。

高年齢者ファッション積極的に楽しんで

どんなに年を取っても、普段、服に関心がなさそうにしている人も、新しい服を手にするとき、心置きなく楽しめませう。

つて、膝まで開く、ひざが不自由な方、向け、両サイドのファスナーで全開になる。車いす利用の方、向けなど、幅広く対応しています。そして注目なのが認知機能低下をカバーするチュニック。認知症の人の切実な思いをくんだアイデアが秀逸だ。「コンセプトは、否定しない、余白を残す、おしやれ」の3つ。

認知症の人は空間認知が衰えやすく、服の前後をよく間違えます。どちらを前に着てもおかしくない、まさに否定しないデザイン。そして袖ゴムを取り外し自在にして、デザインの余白を残しました。もうひとつの、おしやれは、共布で作ったエプロン。認知症に限らず高齢になると増える食べこぼしをカバーしますが、肩部分のホックで留めると一見して汚れ防止のエプロンとは気づかれず、とてもスマート。レストランなどで食事をするときも、心置きなく楽しめませう。



オリジナルファスナーで前開き全開、脱着も楽、可憐な小花柄で上品。シフォン小花プリントブラウス 1万6200円

胸元のフリルで華やか～ 襟付きはきちんと感アップ



カット・ジャガードと立体感のあるプリントで高級感。ウエストのブラウジングもおしゃれ。シフォンブラウス 1万7200円



「多くの高齢者は、やはり難しいデザインや地味な色合いを選びがち。でも色は着る人の気分にも影響しますから、明るい色や華やかな柄にもチャレンジしてみてください。ベースが地味な色でも、たとえば明るい色柄のスカーフを顔周りに取り入れればおしやれて顔色もよく見えます。また胸元にフリルやレースなどの装飾があると表情が華やいて見え、年齢が出やすい首元もカバーできます」

ところで「キアレッタ」は体の不自由な部分に合わせたオーダーメイドではなく、あくまで既製品として販売することにこだわっているという。「既製品を手にとって鏡の前で当てて見たり、それを着た自分を想像してみたりして、選ぶ。楽しさもファッションの大切な要素なのです。明日、何を着ようかな」というワクワク感、その服がいいね、どこで買ったの？と弾む会話、ほめられる喜びもファッションの醍醐味。若い人にはもちろんですが、年を重ね、衰えに抗いながら頑張っておられる高齢の方々にこそ享受していただきたいと思っています」